

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-175638

(43)公開日 平成11年(1999)7月2日

(51) Int.Cl.⁶G 0 6 F 19/00
17/21
17/60

識別記号

F I

G 0 6 F 15/22
15/20
5 7 0 Z
5 9 6 A
15/21
Z

審査請求 未請求 請求項の数9 OL (全25頁)

(21)出願番号

特願平9-338460

(22)出願日

平成9年(1997)12月9日

(71)出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(71)出願人 597171756

株式会社日本環境認証機構

東京都港区赤坂二丁目2番19号

(72)発明者 古谷 雅年

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株式会社日立製作所システム開発研究所内

(72)発明者 佐藤 嘉則

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株式会社日立製作所システム開発研究所内

(74)代理人 弁理士 小川 勝男

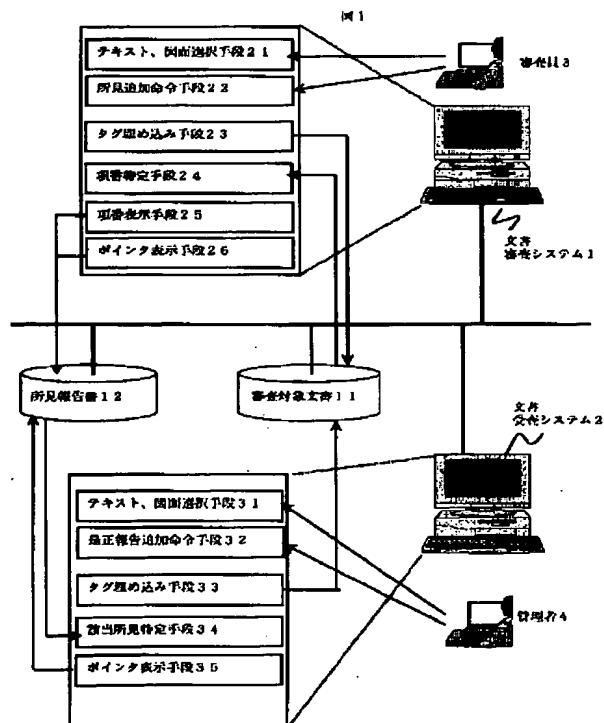
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 文書審査システム及び受査システム

(57)【要約】

【課題】簡単な手続きで、審査対象文書内の指摘箇所、及び、是正箇所と、所見報告書の所定の欄との間の関連付けを行い、かつ、該当する基準項番を所見に反映することができる文書審査システム及び受査システムを提供することである。

【解決手段】利用者が、文書審査システム1を使って、審査対象文書内のテキストを選択し、所見追加コマンドを実行したとき、審査システム1は、そのテキスト部分に移動先タグを埋め込み23、そのテキスト部分に該当する基準項番を特定し24、所見報告書内の所定の欄にその項番を表示し25、指摘箇所に移動するためのポインタを表示し、移動元タグを埋め込む26。利用者が文書受査システム2を使って、審査対象文書内のテキストを選択し、是正内容追加コマンドを実行したとき、受査システム2は、そのテキスト部分に移動先タグを埋め込み33、是正箇所に該当する所見を特定し34、所見報告書内の所定の欄に是正箇所に移動するためのポインタを表示し、ポインタタグを埋め込む35。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 項番を有する基準に従って審査を受けるための文書を作成する審査対象サイトと、文書を審査し、審査内容を報告するための所見報告書を作成する審査機関との間で、相互に文書のやりとりを行うシステムにおいて、

審査対象文書内のテキスト、または、図面を選択する手段と、所見報告書に所見を追加するコマンドを実行する手段と、

上記選択手段によって選択したテキストおよび図面のうち少なくとも一方である指摘箇所に移動先タグを埋め込む手段と、

前記指摘箇所の基準項番を特定する手段と、

所見報告書内の所定の欄に該項番を表示する手段と、所見報告書内の所定の欄に指摘箇所に移動するためのボインタを表示し、移動元タグを埋め込む手段とを有することを特徴とする文書審査システム。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の文書審査システムにおいて、

審査対象文書内の指摘箇所を所見報告書の該当する所見欄に移動するためのボインタにする手段と、

所見報告書内に該所見欄に移動するための移動先タグを埋め込む手段とを有することを特徴とする文書審査システム。

【請求項 3】 請求項 1 または 2 に記載の文書審査システムにおいて、

前記指摘箇所の基準項番を特定する手段は、文書審査システムが基準項番を特定する情報のデータベースを有し、かつ、審査対象文書内に該情報が埋め込まれている場合、指摘箇所から上方向に審査対象文書を検索し、上記データベースに存在する情報を発見して、項番を特定することを特徴とする文書審査システム。

【請求項 4】 請求項 1 または 2 に記載の文書審査システムにおいて、

前記指摘箇所の基準項番を特定する手段は、文書審査システムが基準項番を特定する情報のデータベースを有し、かつ、審査対象文書は該情報が埋め込まれている文書と該情報が埋め込まれていない文書とで構成され、かつ、審査対象文書には審査対象文書間を移動する移動元タグと移動先タグが埋め込まれている場合、

指摘箇所を検索の基準位置にセットする手段と、移動先タグを検索の基準位置にセットする手段と、移動元タグを検索の基準位置にセットする手段と、基準位置から文書内を上方向に移動先タグを検索する手段と、移動先タグの内容と上記データベースの情報とを比較参照する手段と、項番特定情報が埋め込まれている審査対象文書に対して移動元タグを検索する手段とからなることを特徴とする文書審査システム。

【請求項 5】 文書を審査し、審査内容を報告するための所見報告書を作成する審査機関と、該所見報告書の所見

に従って、文書を是正し、所見報告書の所定の欄に是正内容を記載する審査対象サイトとの間で、相互に文書のやりとりを行うシステムにおいて、審査対象文書内のテキスト、または、図面を選択する手段と、所見報告書に是正内容を追加するコマンドを実行する手段と、

上記選択手段によって選択したテキストおよび図面の少なくとも一方である是正箇所に移動先タグを埋め込む手段と、

10 是正箇所に該当する所見を特定する手段と、所見報告書内の所定の欄に、是正箇所に移動するためのボインタを表示し、移動元タグを埋め込む手段とを有することを特徴とする文書受査システム。

【請求項 6】 請求項 5 に記載の文書受査システムにおいて、

審査対象文書内の是正箇所を所見報告書の該当する所見欄に移動するためのボインタにする手段と、

所見報告書内に該所見欄に移動するための移動先タグを埋め込む手段とを有することを特徴とする文書受査システム。

20 【請求項 7】 請求項 5 記載の文書受査システムにおいて、

前記是正箇所に該当する所見を特定する手段は、所見報告書の各所見には所見番号が表示してある場合、所見番号を入力するための画面を表示して、該当する所見を特定することを特徴とする文書受査システム。

【請求項 8】 請求項 5 記載の文書受査システムにおいて、

前記是正箇所に該当する所見を特定する手段は、

30 是正前の審査対象文書の指摘箇所に埋め込まれた移動先タグの情報に基づいて、該情報を有する移動元タグを所見報告書の中から検索して該当する所見を特定することを特徴とする文書受査システム。

【請求項 9】 項番を有する基準に従って審査を受けるための文書を作成する審査対象サイトと、審査対象文書を審査し、審査内容を報告するための所見報告書を作成する審査機関との間で、相互に文書のやりとりを行うシステムにおいて、

所見報告書の移動元タグを書き換えるコマンドを実行する手段と、

40 審査前の審査対象文書の存在場所を指定する手段と、審査後是正した審査対象文書の存在場所を指定する手段と、

移動元所見報告書の移動元タグを書きかえる手段とを有することを特徴とする文書システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、項番を有する基準に従って作成した管理マニュアル、及び、その付属書類 50 に対して審査を行うシステム、並びに、審査所見に従つ

て管理マニュアル、及び、その付属書類を是正するシステムに関する。このなかでも特に、これら文書と所見報告書との文書関連付けを行うシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の審査においては、審査対象サイトは項番を有する基準に従って管理マニュアル、及び、その付属書類（以下、あわせて審査対象文書という）を作成し、紙に出力したものを審査機関に提出し、審査機関はその審査対象文書の審査結果を所見報告書に整理して作成し、紙に出力して、通達していた。このとき、所見報告書の各所見欄には、基準項番、所見、評価などを記載するのが一般的である。

【0003】これに対し、審査対象サイト及び審査機関が文書を電子的に作成し、FDなどの記録媒体、または、インターネットなどのネットワークなどの手段を使って相互に電子的文書をやりとりすることは容易に可能である。

【0004】一方、文書のある部分から、別の文書（または同一文書）のある部分へ容易に移動する技術としてハイパーリンク技術がある。これは、移動元の部分に移動元タグ（以下、ポインタタグという）を挿入し、移動先の部分に移動先タグ（以下、アンカータグという）を挿入することによって、これらタグを理解できるツール（以下、ブラウザという）を使って実現することができる。そして、これらタグを文書内に簡単に挿入するエディタもある。

【0005】このハイパーリンク技術を使えば、電子的文書である所見報告書と審査対象文書との間で関連付けを行うことができ、文書間の移動を容易にすることができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】審査対象サイトが作成する審査対象文書は、項番を有する基準に従って記述される必要があるため、文書内のテキストや図面などは、基準項番のいずれかに関連するものがほとんどである。また、所見報告書の各所見には、この項番に関する情報を記載するのが一般的である。従って、審査機関の審査員が、審査対象文書を閲覧し、文書内のテキストや図面に問題点など（以下、指摘箇所という）を発見したとき、簡単な手続きで、項番に関する情報の表示と、指摘箇所と所見との間の関連付けが行うことができれば、非常に使い勝手の良いものとなる。

【0007】さらに、審査対象サイトは、所見に従って審査対象文書を是正するので、審査対象文書を是正し、簡単な手続きで、是正箇所と所見との間の関連付けが行うことができれば、非常に使い勝手の良いものとなる。

【0008】従来の技術で上記関連付けを行うために、指摘箇所や是正箇所にアンカータグを埋め込む手段と、該当する所見にたどりつく手段と、所見にポインタの役割をもつテキストを書き込むか、または、アイコン

を貼り付けるなどの手段と、そのテキストやアイコンに指摘箇所や是正箇所へ移動するためのポインタタグを埋め込む手段とを利用者が独立に用いる必要があった。また、指摘箇所に対して、基準項番を特定し、それを所見欄に表示するためには、基準項番を見つける手段と、該当する所見にたどりつく手段と、所見に項番を書き込む手段とを利用者が独立に用いる必要があった。そのため、利用者は手間がかかった。

【0009】本発明の課題は、利用者の簡単な手続きで、審査対象文書内の指摘箇所、及び、是正箇所と、所見報告書の所定の欄との間の関連付けを行い、かつ、該当する基準項番を所見に反映することができる文書審査システム及び文書受査システムを提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明の文書審査システムは、以下の構成とした。審査対象文書内のテキスト、または、図面を選択する手段と、所見報告書に所見を追加するコマンドを実行する手段とを有し、利用者がこの2つの手段を利用して選択したテキスト、または、図面（以下、指摘箇所という）に移動先タグ（以下、アンカータグという）を埋め込み、指摘箇所に該当する基準項番を特定し、所見報告書内の所定の欄に該項番を表示し、所見報告書内の所定の欄に指摘箇所に移動するためのポインタを表示し、移動元タグ（以下、ポインタタグ）を埋め込む。

【0011】また、本発明の文書受査システムは、以下の構成をとる。審査対象文書内のテキスト、または、図面を選択する手段と、所見報告書に是正内容を追加するコマンドを実行する手段とを有し、利用者がこの2つの手段を利用して選択したテキスト、または、図面（以下、是正箇所という）にアンカータグを埋め込み、是正箇所に該当する所見を特定する手段によって、利用者、または、コンピュータが該当する所見を特定したとき、コンピュータが、自動的に、所見報告書内の所定の欄に、是正箇所に移動するためのポインタを表示し、ポインタタグを埋め込む。

【0012】上記手段を有する文書審査システム、または、文書受査システムによって、利用者は、テキスト、または、図面を選択し、コマンドを実行すれば、審査対象文書内の指摘箇所、及び、是正箇所と、所見報告書の所定の欄との間の関連付けができ、かつ、該当する基準項番を所見に反映できる。

【0013】

【発明の実施の形態】図1は、本発明の管理マニュアル、及び、その付属書類（以下、審査対象文書という）と、所見報告書との間での文書関連付けを行う文書審査システム1、及び、文書受査システム2のシステム構成を示したものである。

【0014】両システム1、2は、ともにコンピュータシステムで、文書審査システム1は、審査機関の審査員3が利用し、文書受査システム2は、審査対象サイトの管理者など4が利用する。両システムとも、審査対象文書11、所見報告書12の電子的文書に対して編集が可能である。

【0015】文書審査システム1は、審査対象文書内のテキスト、または、図面を選択する手段21と、所見報告書に所見を追加するコマンドを実行する手段22と、上記選択手段によって選択したテキスト、または、図面（以下、指摘箇所という）に移動先タグ（以下、アンカータグという）を埋め込む手段23と、指摘箇所に該当する基準項番を特定する手段24と、所見報告書内の所定の欄に該項番を表示する手段25と、所見報告書内の所定の欄に指摘箇所に移動するためのポインタを表示し、移動元タグ（以下、ポインタタグという）を埋め込む手段26とを有している。

【0016】文書受査システム2は、審査対象文書内のテキスト、または、図面を選択する手段31と、所見報告書に是正内容を追加するコマンドを実行する手段32と、上記選択手段によって選択したテキスト、または、図面（以下、是正箇所という）にアンカータグを埋め込む手段33と、是正箇所に該当する所見を特定する手段34と、所見報告書内の所定の欄に、是正箇所に移動するためのポインタを表示し、ポインタタグを埋め込む手段35とを有している。

【0017】以下、本文または図において、ポインタ、アンカーなどの表記があったとき、<>で囲まれた部分をタグといい、をポインタタグ、をアンカータグという。また、ポインタタグの" "に囲まれた部分をポインタ名、また、アンカータグの" "に囲まれた部分をアンカーネームという。

【0018】なお、審査システム1及び受査システム2では、通常、タグは画面上には表示されず、ポインタ、アンカーが表示され、かつポインタは下線表示される。なお、これらの表示非表示は、変更があってもよい。例えば、タグを表示するなど。

【0019】図2～図4は、本発明の文書審査システム1によって審査対象文書を閲覧し、指摘箇所に対する所見報告書を作成する手順を説明するものである。図2のように、審査官は、審査対象となる審査対象文書11を開き、内容を閲覧する。このとき、問題点を発見すれば、マウスなどを使って指摘箇所111として選択し、所見追加ボタン110をクリックする。なお、所見追加ボタンは、指摘箇所が選択された後他の部分と区別されるように表示してもよい。また、選択が済んだあとにこのように表示してもよい。また、図2においては、指摘箇所111には下線が付されているが、他の部分と区別されるように表示すればよい。例えば、文字の色を変え

て表示、（各）文字のまわりを囲んで表示、網掛けを施して表示などでもよい。この表示については、図2以外の図についても同様である。

【0020】このとき、図3のように、所見報告書12の中の新しい所見欄120に、基準項番121、及び、指摘箇所へ移動するためのポインタ122、及び、そのタグ123が自動的に追加される。同時に、図4のように審査対象文書11の中に、指摘箇所へ移動するためのアンカータグ112が埋め込まれる。審査員や管理者10が、所見報告書12の中の、このポインタ123をクリックすると、ポインタ名に従って、審査対象文書11の中の該当する指摘箇所111に移動できる。図3のポインタタグは、book1.htmlというファイルの中のというアンカータグが存在する部分に移動するという意味である。

【0021】図5～図7、本発明の文書審査システム1によって指摘箇所に該当する基準項番を特定する手段について説明するものである。図5のように、文書審査システム1、及び、文書受査システム2は、基準項番を特定する共通の情報のデータベース130を有している。図6の例では、項番4.2.1にはアンカーネームとしてN421が割り当てられている。

【0022】通常、審査対象文書11は、図6のように管理マニュアル141と付属書類142とからなる。管理マニュアルから対応する付属書類へ移動するハイパリンクをはるのは一般的である。図6の例では、管理マニュアルM42.htmlの中の「管理手順書」という部分をクリックすれば、付属書類B2.htmlの先頭に移動する。このような管理マニュアルと付属書類に対して、管理マニュアル内には、基準項番の影響範囲の始点（通常は、図5のデータベース130に示した該当する文字列のあるところ）143に、データベースに従うアンカーネームを有するアンカータグ144を埋め込む。

【0023】図7は、基準項番を特定する手順である。特定する手順は、指摘箇所を検索の基準位置にセットする手段151と、アンカータグ位置を検索の基準位置にセットする手段152と、ポインタタグ位置を検索の基準位置にセットする手段153と、基準位置から文書内上方方向にアンカータグを検索する手段154と、アンカーネームとデータベースの情報を比較参照する手段155と、管理マニュアルの中のポインタタグを検索する手段156、157とからなり、指摘箇所を検索の基準位置にセットすることから始めて、データベースに存在するアンカーネームをもつアンカータグを発見するまで上記手段を繰り返し用いて項番を特定する150。もし、手順の途中で文書名のみのポインタタグを検索してみつからない場合には、項番特定不能160として終了する。

【0024】上記文書審査システム1によって、利用者は、テキスト、または、図面を選択し、コマンドを実行すれば、審査対象文書内の指摘箇所と、所見報告書の所

定の欄との間の関連付けができ、かつ、該当する基準項目番を所見に反映できる。

【0025】図8～図11は、本発明の文書受査システム2によって所見報告書を閲覧し、指摘箇所に従って審査対象文書を是正し、その是正内容を所見報告書に反映する手順を説明するものである。

【0026】ここでは、審査対象サイトは、審査機関が作成した所見報告書12、及び、この所見報告書との関連付けがなされている審査対象文書11を入手しているものとする。図8のように、管理者は所見報告書12を開き、所見120の内容を読む。所見には、所見No.124が付与されているものとする。このとき、指摘箇所へのポインタ122をクリックし、文書関連付け情報を含む審査対象文書11の指摘箇所111へ移動し、所見に従い、審査対象文書11を是正する。

【0027】是正した後は、図9のように、マウスを使って是正部分を是正箇所113として選択し、是正報告ボタン32をクリックする。このとき、所見No.を入力するダイアログボックス161が開き、管理者は、所見報告書の所見No.124を参考にして、所見No.162を入力し、OKボタン163をクリックする。

【0028】このとき、図10のように、所見報告書12の中の該当する所見欄120に、是正箇所へ移動するためのポインタ125、及び、そのタグ126が自動的に追加される。同時に、図11のように是正した審査対象文書11の中に、是正箇所113へ移動するためのアンカータグ114が埋め込まれる。

【0029】上記の手順では、所見No.を入力するダイアログボックス161を使って、該当する所見を特定したが、審査対象文書11の指摘箇所のアンカータグ112へ移動するポインタタグ123を所見報告書12の中から検索して、該当する所見を特定する手段でもよい。

【0030】上記文書受査システム2によって、利用者は、テキストまたは図面を選択し、コマンドを実行すれば、審査対象文書内の是正箇所と、所見報告書の所定の欄との間の関連付けができる。

【0031】図12は、本発明の審査対象文書と所見報告書との文書関連付けを双方向で行う手段について説明するものである。ここまで説明では、審査対象文書と所見報告書との関連付けを、所見報告書から審査対象文書への片方向の移動のみとして説明したが、同様な手段を用いて、両方向の移動とすることができる。図12のように、所見報告書12の指摘箇所へのポインタ部分122に、審査対象文書11の指摘箇所111から移動するためのアンカータグ127を埋め込み、審査対象文書11の指摘箇所111に、該当する所見のポインタ122へ移動するためのポインタタグ115を同時に埋め込む。是正箇所についても同様である。上記文書審査シス

テム1によって、所見から指摘箇所への移動、指摘箇所から所見への移動、所見からは是正箇所への移動、是正箇所から所見への移動が容易になる。文書受査システム2についても同様である。

【0032】図13～図14は、文書審査システム1、または、文書受査システム2を使って、審査対象文書に項目番を特定する情報を埋めこむ手順について補足説明するためのものである。両システム1、2は、基準項目番を表すテキストと、項目番を特定する情報とを、関係づけるデータベース130を有し、項目番を埋め込むコマンドを実行する手段41と、データベース130で定義された該当文字列を審査対象文書内で検索する手段42と、項目番を特定する情報を埋めこむ手段43とを有している。

【0033】両システム1、2の利用者が項目番を埋め込むコマンドを実行したとき、データベース130から該当文字列とそのアンカーネームをロードし、すべての審査対象文書11に対して、すべての該当文字列の検索を行い、図14のように、もし、該当文字列171を発見したならば、発見した位置に対応するアンカーネームを有するアンカータグ172を埋め込む。

【0034】両システムにこの手段を組み込んでおくことで、基準項目番を特定する情報を埋め込むのが容易となる。しかも、この手段を使えば、審査システム1と、受査システム2とで共通の内容のデータベース130を用いることになり、項目番の特定や、文書の関連付けが容易になる。

【0035】図15は、本発明の審査前の審査対象文書と、是正後の審査対象文書と、所見報告書との文書関連付けを行う文書審査システム1、または、文書受査システム2のシステム構成を示したものである。両システム1、2は、所見報告書12のポインタタグを書き換えるコマンドを実行する手段51と、審査前の審査対象文書の存在場所を指定する手段52と、審査後是正した審査対象文書の存在場所を指定する手段53と、所見報告書12のポインタタグを書きかえる手段54とを有している。

【0036】図16～図19は、本発明の文書審査システム1、または、文書受査システム2によって、審査前の審査対象文書と、所見報告書と、是正後の審査対象文書との関連付けを行う手順を説明するものである。審査前の審査対象文書と、是正後の審査対象文書は、異なる場所（フォルダが異なれば十分）に保存したものとする。以下の説明では、所見報告書が保存してあるフォルダの下に、beforeというフォルダと、afterというフォルダがあり、beforeというフォルダに審査前の審査対象文書が保存され、afterというフォルダに是正後の審査対象文書が保存されているものとする。

【0037】図16のように、指摘箇所へのポインタタグ123、及び、是正箇所へのポインタタグ126は、

それぞれ指摘（審査）が行われたとき、是正が行われたときの状況に基づいたものになっていることが多い。このとき、審査前の審査対象文書13と、是正後の審査対象文書14とを別の場所に移動したとき、ポインタタグ123、126は正しい移動先を示してなく、このポインタをクリックしても正しい位置へ移動することができない。このとき、ポインタ修正ボタン51をクリックする。

【0038】このとき、図17のように、保存場所を入力するダイアログボックス181が開き、利用者は、審査前の審査対象文書13と、是正後の審査対象文書14との保存場所の指定52、53を行う。指定においては、保存場所参照ボタン182をクリックして、保存場所の一覧から選んでもよい。そして、OKボタン183をクリックする。このとき、図18のように、指摘箇所へのポインタタグ123、及び、是正箇所へのポインタタグ126が、正しい移動先を示す。このように所見報告書のポインタタグ123、126が正しい移動先を示しているとき、図19のように、所見報告書の指摘箇所へのポインタ122をクリックすれば、審査前の審査対象文書13の指摘箇所111へ移動してその内容を閲覧でき、是正箇所へのポインタ125をクリックすれば、是正後の審査対象文書14のは正箇所113へ移動し、その内容を閲覧できる。

【0039】上記文書審査システム1、または、文書受査システム2によって、例えば、審査対象文書の保存場所を移動したとしても、簡単な手続きですべての関連付けを正しいものに修正できるし、かつ、所見報告書を介して、審査前の審査対象文書の指摘箇所と、是正後の審査対象文書のは正箇所とへ移動ができるので、その比較参照をスムーズに行うことができる。

【0040】図20～図24は、文書の受け渡し、文書へのアクセスなどについて補足説明するものである。例えば、図20では、受査システム2で審査対象文書11を作成し、FDなどの記録媒体41に記録し、審査システム1側にFD201を渡し、審査システム1のハードディスク202にFDの審査対象文書11をコピーして取り扱う。例えば、図21では、審査システム1は、ローカルエリアネットワーク210に接続されており、ネットワーク210はさらに文書サーバ211にも接続している。このとき、FD201の審査対象文書11を文書サーバ211にコピーし、ローカルエリアネットワーク210経由で取り扱う。

【0041】例えば、図22では、審査システム1は、FTPサーバ221、または、メールサーバ222に接続し、さらに、これらサーバ221、222は、インターネット300に接続している。受査システム2側も同様にインターネット300に接続している。このとき、受査システム2側より、審査対象文書11をFTPサーバ221へアップロードし、さらに、FTPサーバ22

1から審査対象文書11を審査システム1側へダウンロードして審査を行うか、または、審査対象文書11をメールサーバ222へ送信し、メールサーバ222から審査対象文書11を審査システム1側へダウンロードして取り扱う。

【0042】例えば、図23では、受査システム2は、ローカルエリアネットワーク230に接続されており、ネットワーク230はさらに文書サーバ231にも接続している。さらに、このサーバ231は、インターネット300にも接続している。審査システム1もインターネット300に接続している。このとき、文書サーバ231に審査対象文書11をおき、インターネット300を介して、審査システム1側より、直接、文書サーバ231にアクセスして取り扱う。

【0043】例えば、図24では、受査システム2は、ローカルエリアネットワーク230に接続されている。また、審査員はLANカード241を搭載した携帯コンピュータ240に審査システム1を導入しておく。このとき、審査員はこの携帯コンピュータ240を審査対象サイトに持参し、ローカルエリアネットワーク230のハブ242にLANケーブル243を使って接続し、直接、受査システム側の審査対象文書11にアクセスして取り扱う。なお、この例は有線によるものだが、無線LANによる構成でも良い。

【0044】上記図20～図24の例では、審査対象文書システム1が審査対象文書11を取り扱う例について説明したが、受査システム2が所見報告書12を取り扱うのも同様である。また、システム1、2を利用するとき、審査対象文書、及び、所見報告書が同じ場所に存在する必要はない。例えば、所見報告書12は審査システム1のハードディスク202上にあり、審査対象文書11は受査システム2側の文書サーバ232上にある場合などである。

【0045】
【発明の効果】本発明によれば、審査対象文書内の指摘箇所を選択し、所見追加ボタンをクリックするだけで、所見報告書に新しい所見欄を追加でき、しかも、その所見欄には、基準項番と、指摘箇所へ移動するポインタが自動的に表示される。このポインタをクリックすれば、審査対象文書の指摘箇所へ移動できる。これは、特に、審査対象文書が非常に多い場合に有効である。是正箇所についても同様である。所見報告書の所見には、指摘箇所へのポインタ、及び、是正箇所へのポインタが表示されるので、指摘箇所がどのように是正されたのかを簡単に比較することができる。

【図面の簡単な説明】
【図1】審査対象文書と、所見報告書との間での文書関連付けを行う文書審査システム、及び、文書受査システムのシステム構成を示す図である。

【図2】審査対象文書を閲覧し、指摘箇所に対する所見

報告書を作成する手順を説明する図（その1）である
【図3】審査対象文書を閲覧し、指摘箇所に対する所見報告書を作成する手順を説明する図（その2）である
【図4】審査対象文書を閲覧し、指摘箇所に対する所見報告書を作成する手順を説明する図（その3）である。
【図5】指摘箇所に該当する基準項番を特定する手段について説明する図（その1）である。
【図6】指摘箇所に該当する基準項番を特定する手段について説明する図（その2）である。
【図7】指摘箇所に該当する基準項番を特定する手段について説明する図（その3）である。
【図8】所見報告書を閲覧し、指摘箇所に従って審査対象文書を是正し、その是正内容を所見報告書に反映する手順を説明する図（その1）である。
【図9】所見報告書を閲覧し、指摘箇所に従って審査対象文書を是正し、その是正内容を所見報告書に反映する手順を説明する図（その2）である。
【図10】所見報告書を閲覧し、指摘箇所に従って審査対象文書を是正し、その是正内容を所見報告書に反映する手順を説明する図（その3）である。
【図11】所見報告書を閲覧し、指摘箇所に従って審査対象文書を是正し、その是正内容を所見報告書に反映する手順を説明する図（その4）である。

【図12】審査対象文書と所見報告書との文書関連付けを双方向で行う手段について説明する図である。
【図13】審査対象文書に項番を特定する情報を埋めこむ手順について補足説明する図（その1）である。
【図14】審査対象文書に項番を特定する情報を埋めこむ手順について補足説明する図（その2）である。
【図15】審査前の審査対象文書と、是正後の審査対象文書と、所見報告書との文書関連付けを行う文書審査シ

ステム、または、文書受査システムのシステム構成を示す図である。

【図16】審査前の審査対象文書と、所見報告書と、是正後の審査対象文書との関連付けを行う手順を説明する図（その1）である。

【図17】審査前の審査対象文書と、所見報告書と、是正後の審査対象文書との関連付けを行う手順を説明する図（その2）である。

【図18】審査前の審査対象文書と、所見報告書と、是正後の審査対象文書との関連付けを行う手順を説明する図（その3）である。

【図19】審査前の審査対象文書と、所見報告書と、是正後の審査対象文書との関連付けを行う手順を説明する図（その4）である。

【図20】文書の受け渡し、文書へのアクセスなどについて補足説明する図（その1）である。

【図21】文書の受け渡し、文書へのアクセスなどについて補足説明する図（その2）である。

【図22】文書の受け渡し、文書へのアクセスなどについて補足説明する図（その3）である。

【図23】文書の受け渡し、文書へのアクセスなどについて補足説明する図（その4）である。

【図24】文書の受け渡し、文書へのアクセスなどについて補足説明する図（その5）である。

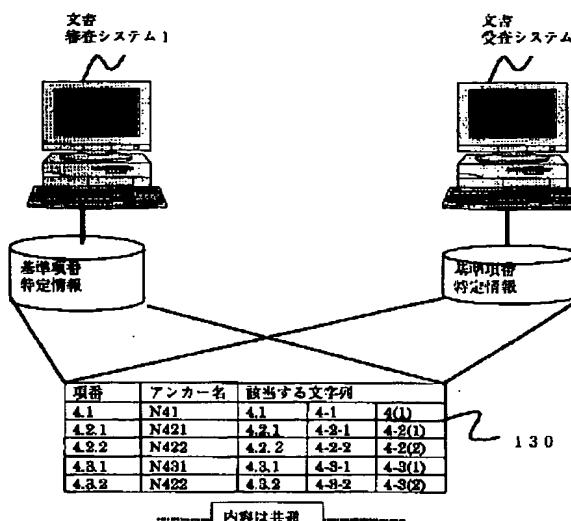
【符号の説明】

1…文書審査システム、2…文書審査システム、11…審査対象文書、12…所見報告書、111…指摘箇所、113…是正箇所、121…所見の基準項番、122…指摘箇所へのポインタ、125…是正箇所へのポイン

30 タ、130…基準項番を特定する情報のデータベース

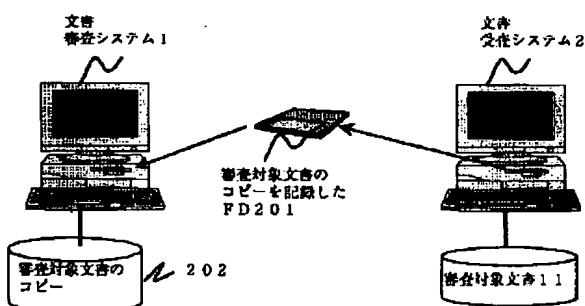
【図5】

図5

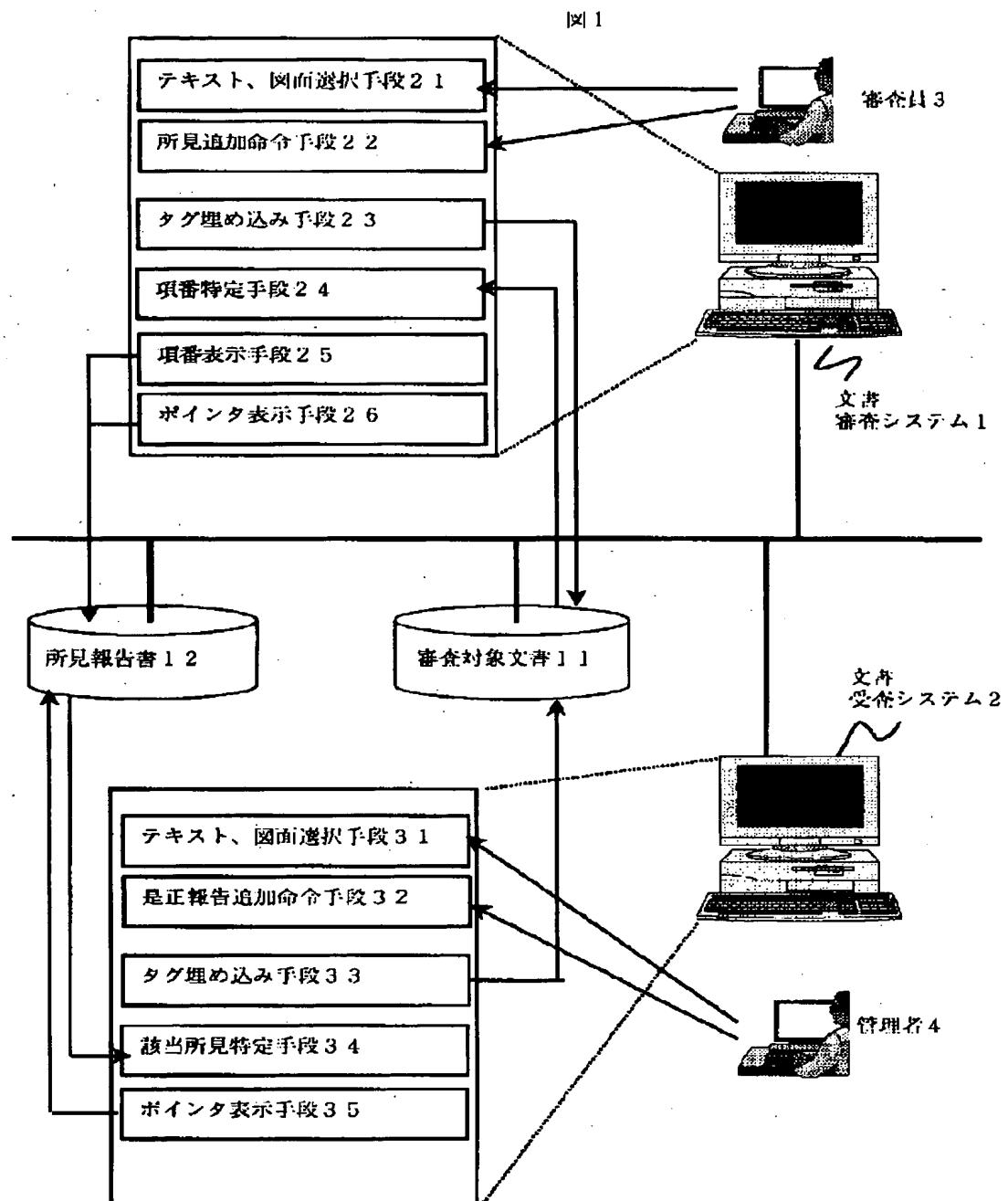


【図20】

図20



【図1】

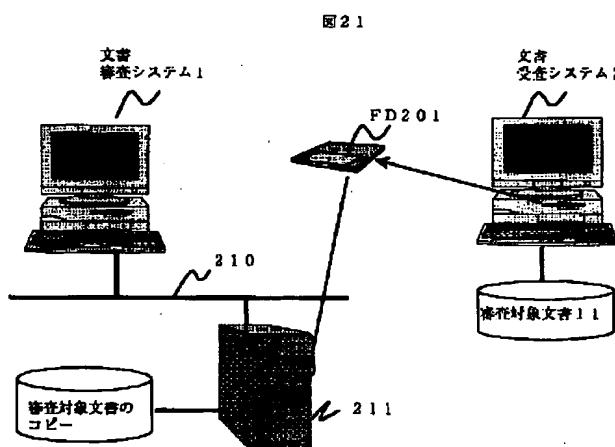


【図2】

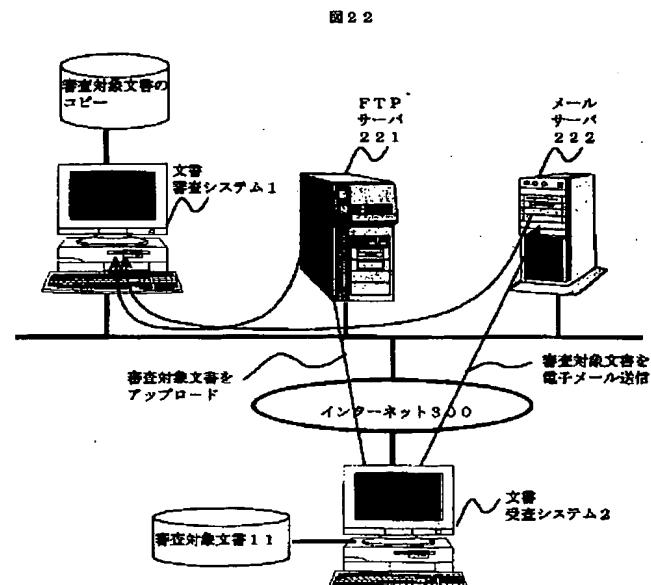
図2

文書審査システムー文書	
ファイル 編集 表示挿入 ウィンドウ ヘルプ	
所見へ追加	110
11	<p>A工場は、電子計算機等の設計・製造及び計算機ソフトウェアを製作する工場であることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を実施する。</p> <p>1. 環境関連の法律、規制、業界基準を遵守するとともに、B社の全社的環境方針にのっとり、自主基準、業務手順を整備し、環境管理の継続的改善に努める。</p> <p>2. 有機溶剤などの化学物質による環境汚染の防止を図る。<u>特に特定フロン(冷媒用)の代替物質への転換、シンナーの的確な管理に努める。</u></p> <p>3. 地球温暖化防止のため、電力、石油及びガス燃料の節減を推進する。特に動力・空調・照明用エネルギーの削減に努める。</p>

【図21】



【図22】



【図3】

図3

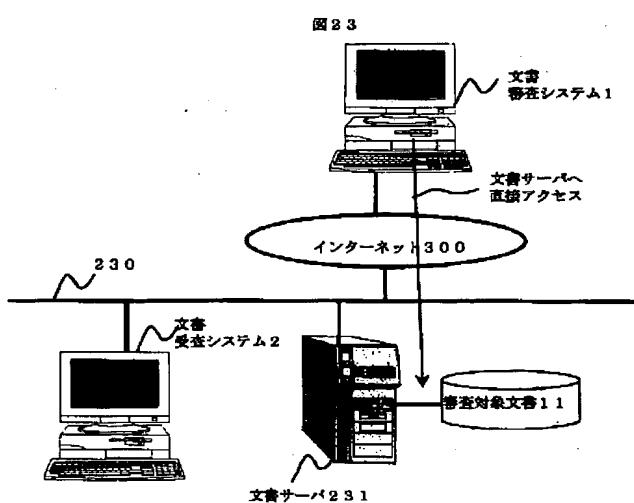
文書審査システムー所見報告書

ファイル 編集 表示挿入 ウィンドウ ヘルプ

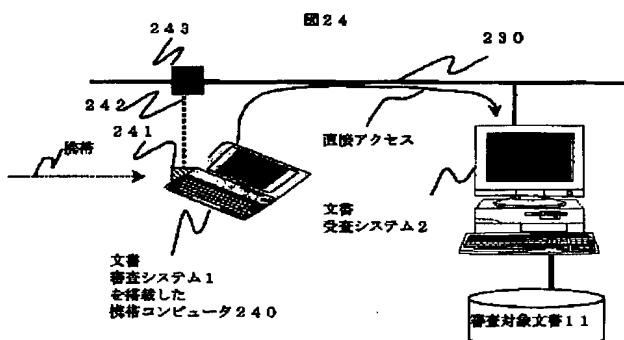
所見へ追加

No.24	
基準項目番	4.2.1
指摘箇所へのポインタ	 (非表示) 特定フロン～物質 (非表示)
指摘箇所に対する所見	121
指摘箇所に対する評価	120
是正箇所へのポインタ	122
是正内容	123

【図23】

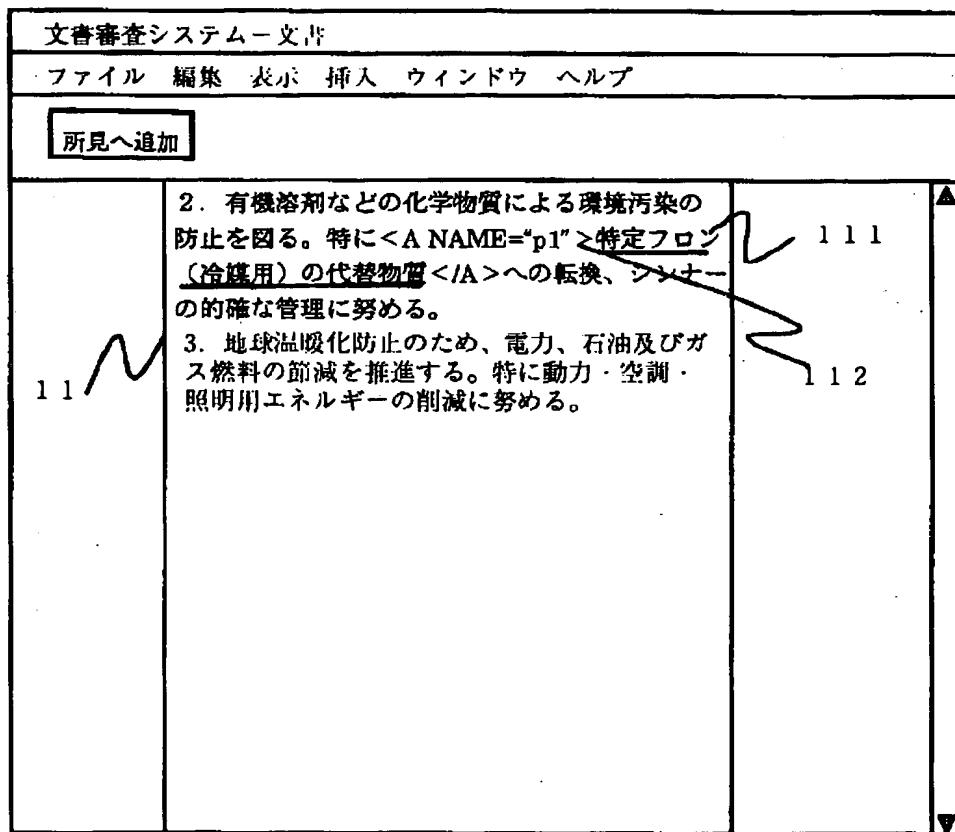


【図24】

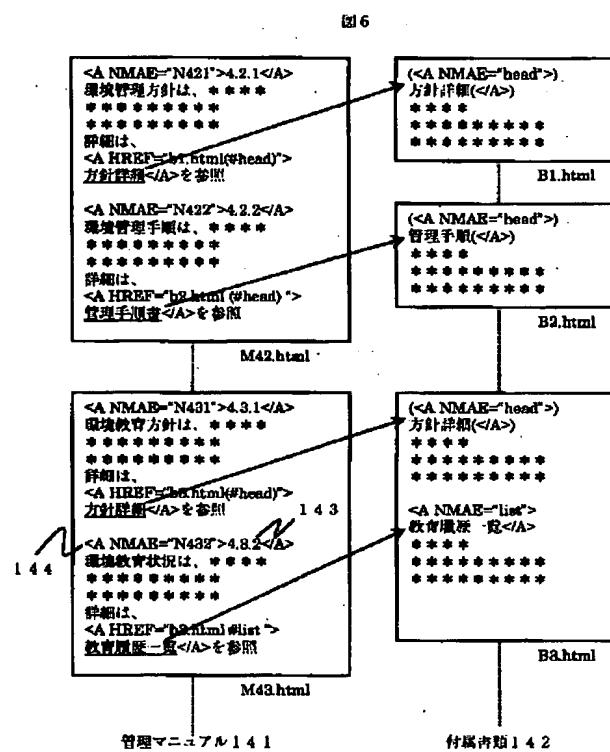


【図4】

図4

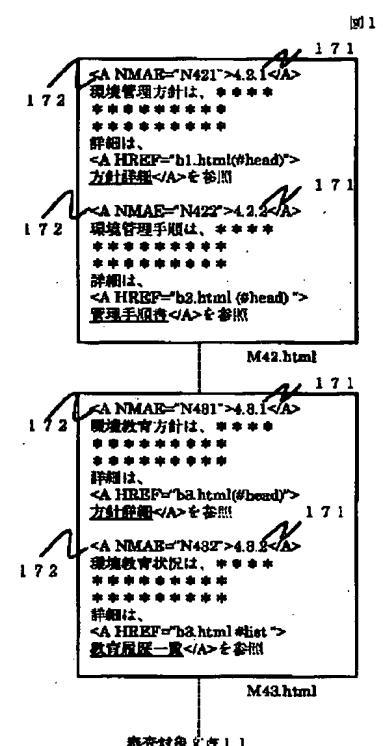


【図 6】



0内は省略可

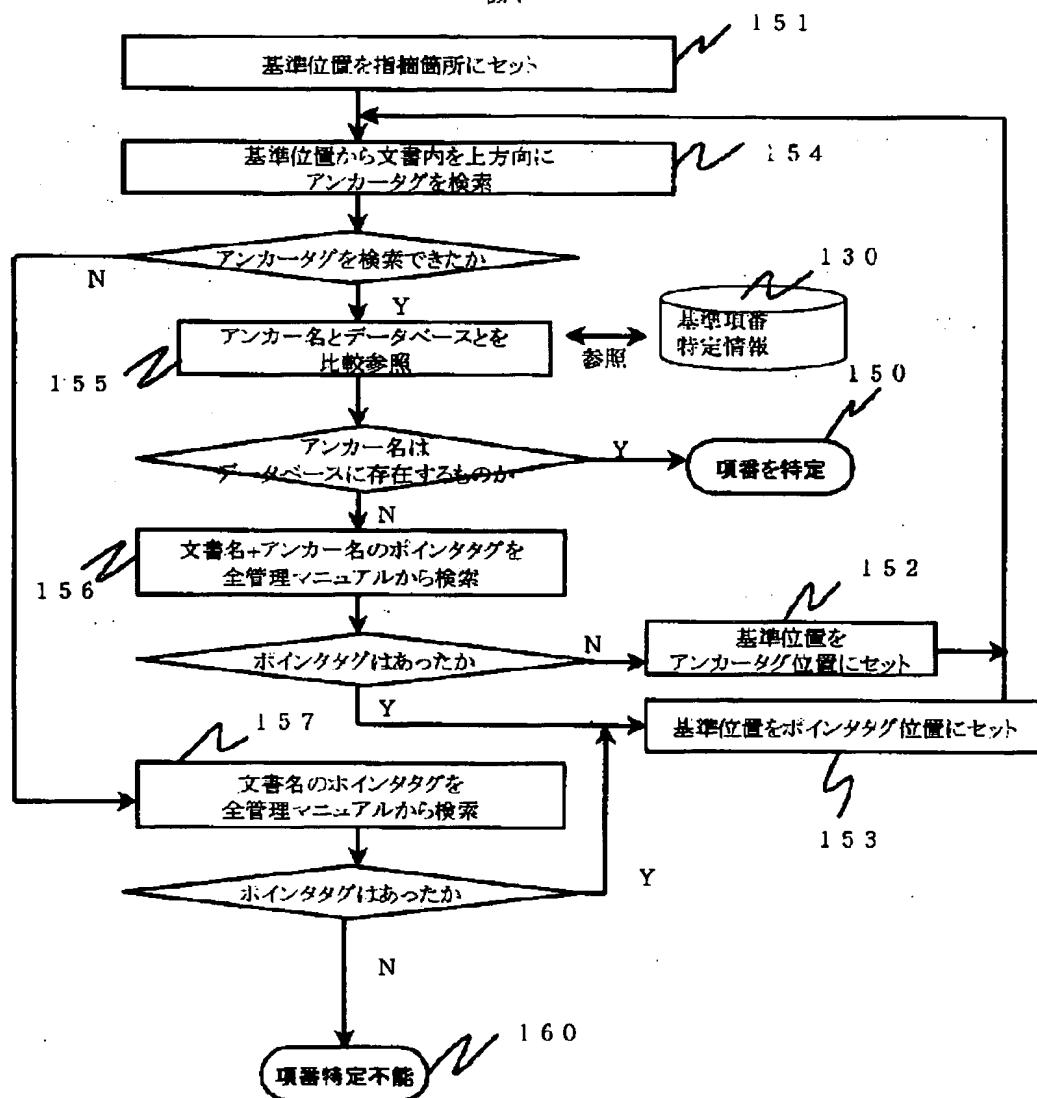
【図 14】



検査対象文件 1

【図7】

図7



【図8】

図8

文書受査システム-所見報告書

ファイル 編集 表示挿入 ウィンドウ ヘルプ

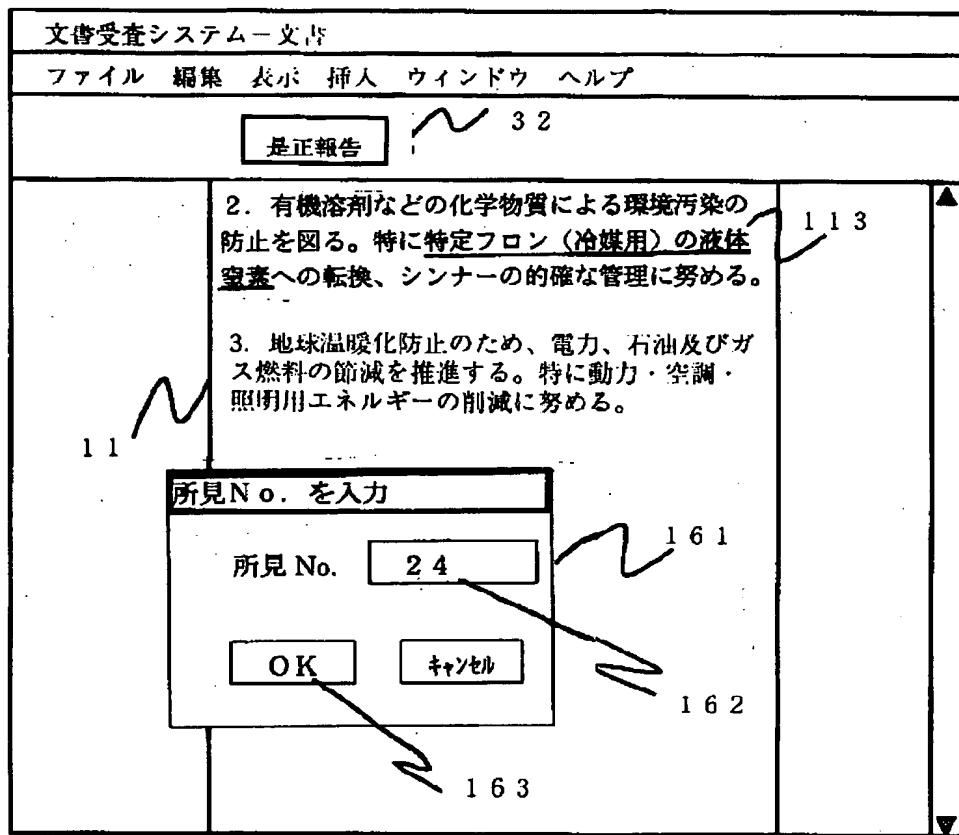
是正報告

基準項目番	4.2.1
指摘箇所へのポインタ	特定フロン-物質
指摘箇所に対する所見	代替物質が不明です。
指摘箇所に対する評価	△
是正箇所へのポインタ	
是正内容	

124
122
No.24
120

【図9】

図9



【四 10】

圖 10

文書受査システム-所見報告書	
ファイル 編集 表示挿入 ウィンドウ ヘルプ	
是正報告	
No.24	
基準項目番	4. 2. 1
指摘箇所へのポインタ	<u>特定フロン～物質</u>
指摘箇所に対する所見	代替物質が不明です
指摘箇所に対する評価	△
是正箇所へのポインタ	 (非表示) 特定フロン～空素 (非表示)
是正内容	

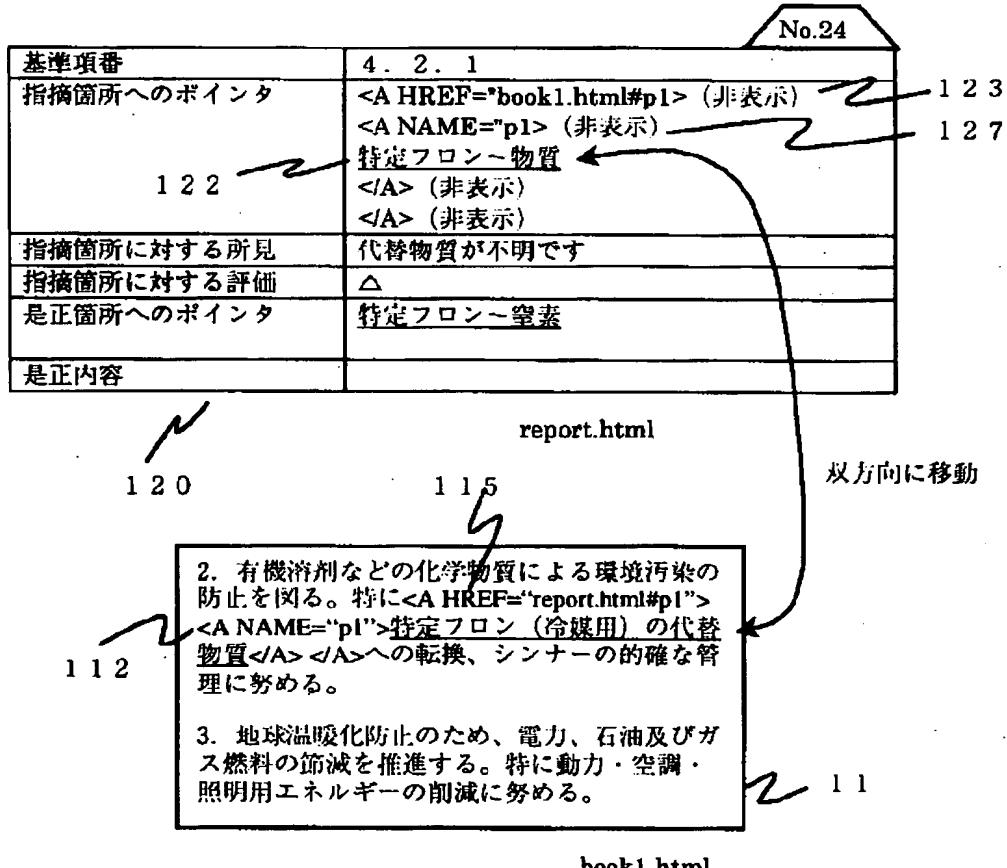
【図11】

図11

文書受査システム - 文書	
ファイル 編集 表示挿入 ウィンドウ ヘルプ	
是正報告	
11	<p>2. 有機溶剤などの化学物質による環境汚染の防止を図る。特に<u>特定フロー</u> <u>(冷媒用)の液体窒素への転換、シメナーの的確な管理に努める。</u></p> <p>3. 地球温暖化防止のため、電力、石油及びガス燃料の節減を推進する。特に動力・空調・照明用エネルギーの削減に努める。</p>
	113 114

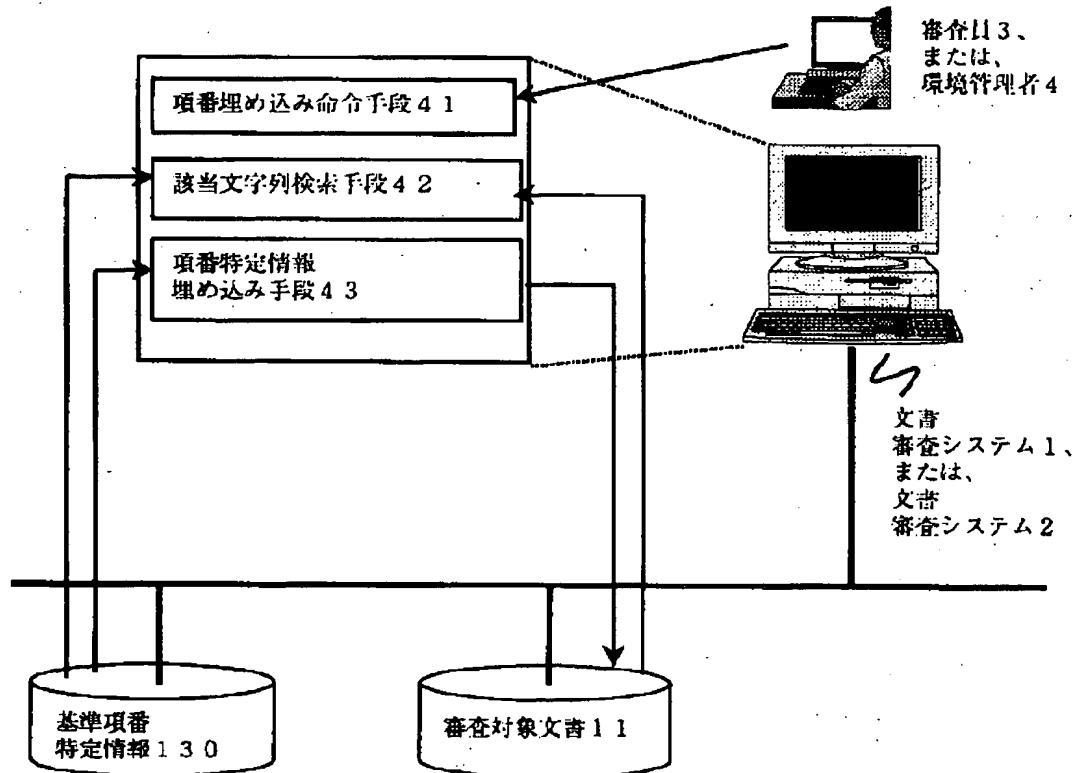
【図12】

図12



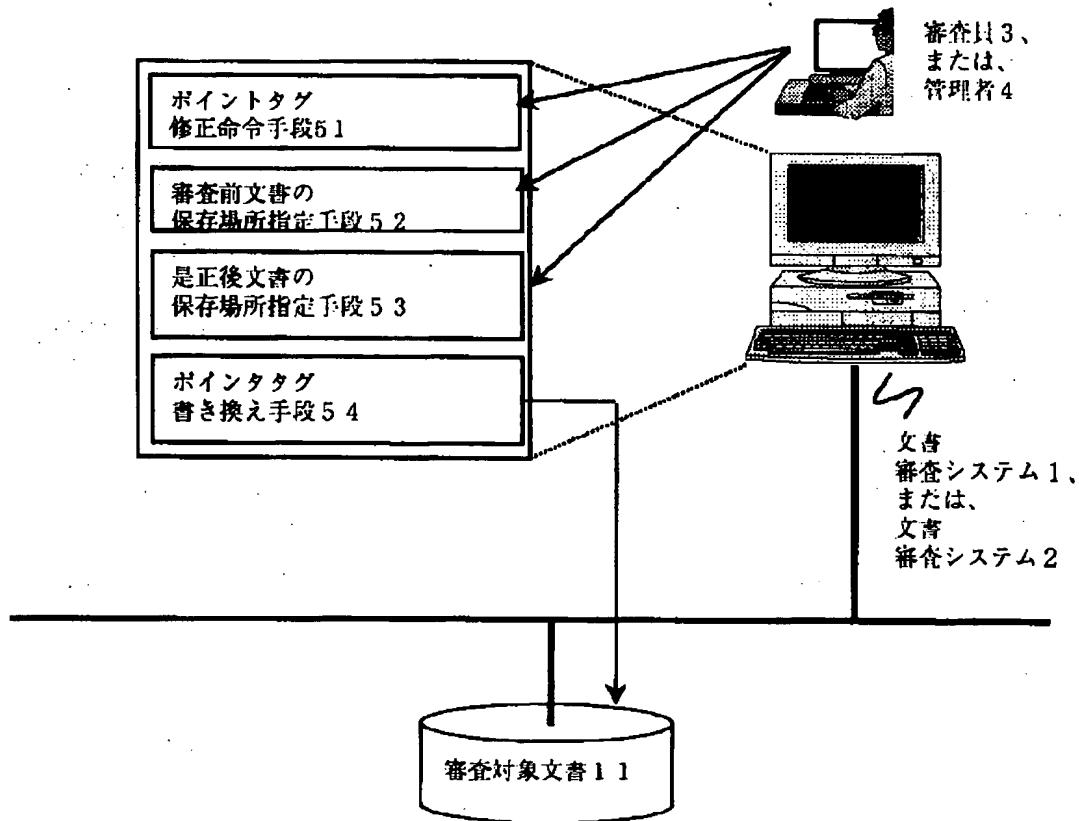
【図13】

図13



【図15】

図15



【図16】

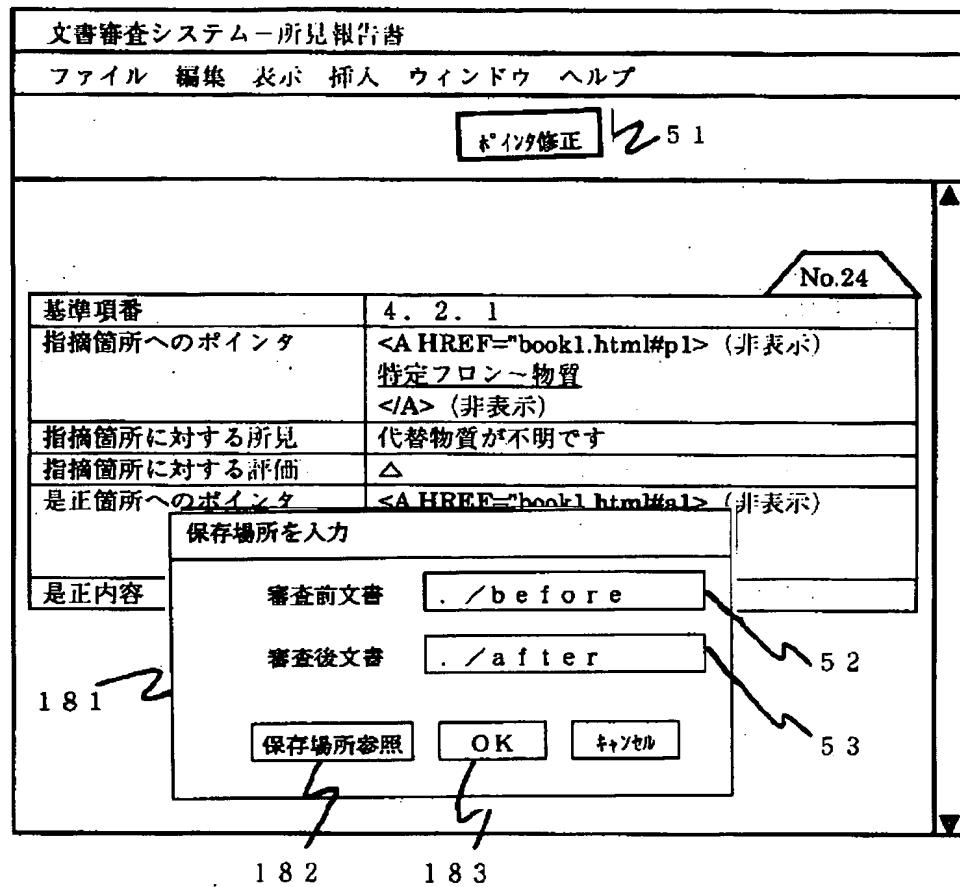
図16

文書審査システムー所見報告書	
ファイル 編集 表示挿入 ウィンドウ ヘルプ	
← 51	
No.24	
基準項目番号	4.2.1
指摘箇所へのポインタ	 (非表示) 特定フロン～物質 (非表示) 122
指摘箇所に対する所見	代替物質が不明です
指摘箇所に対する評価	△
是正箇所へのポインタ	 (非表示) 特定フロン～窒素 (非表示)
是正内容	代替物質を明確にしました

120 125 123 126

【図17】

図17



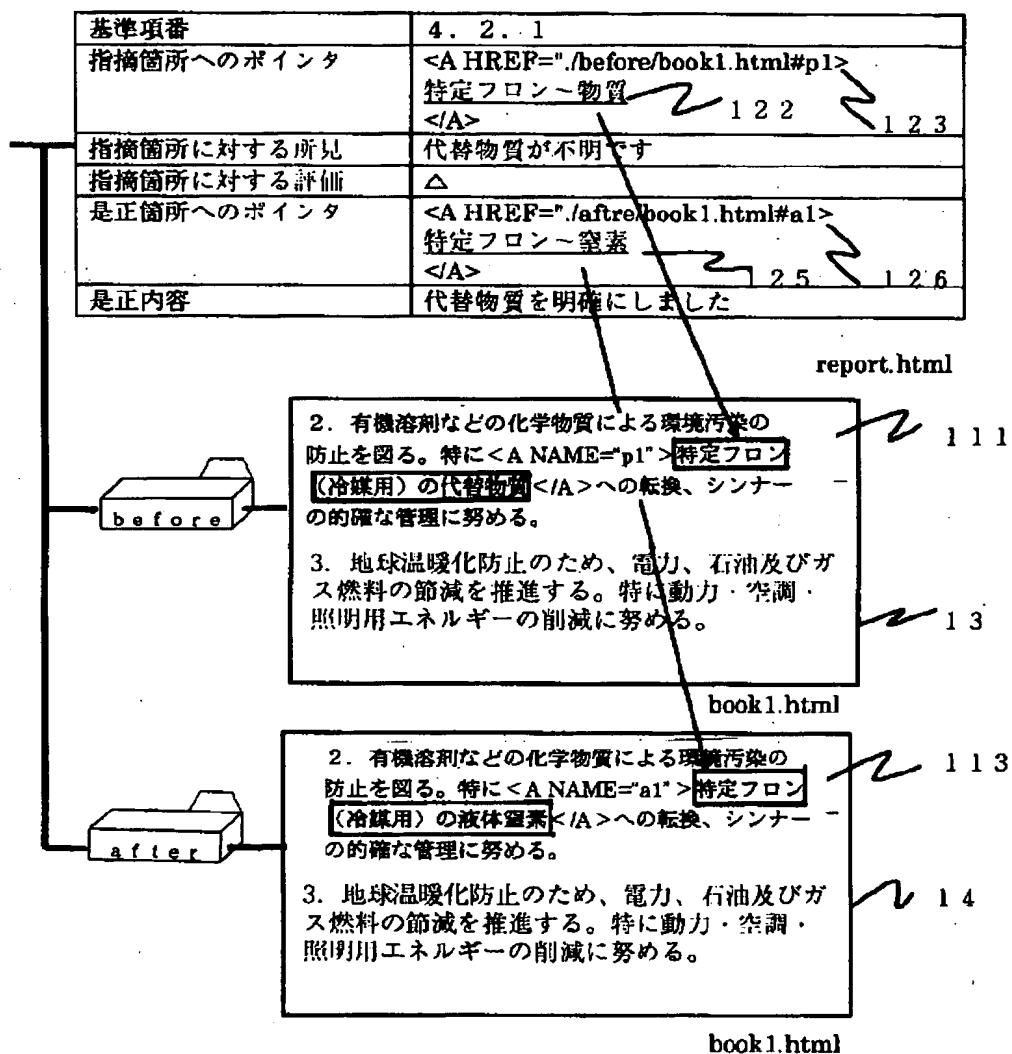
【図18】

図18

文書審査システム-所見報告書	
ファイル 編集 表示挿入 ウィンドウ ヘルプ	
* インタ修正 251	
▲	
123	
No.24	
基準項目番	4. 2. 1
指摘箇所へのポインタ	 特定フロン～物質
指摘箇所に対する所見	代替物質が不明です
指摘箇所に対する評価	△
是正箇所へのポインタ	 特定フロン～空素
是正内容	代替物質を明確にしました
120	
125	
126	
▼	

【図19】

図19



フロントページの続き

(72)発明者 仙石 浩明

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株式会社日立製作所システム開発研究所内

(72)発明者 市川 芳明

茨城県日立市大みか町五丁目2番1号 株式会社日立製作所大みか工場内

(72)発明者 中野 利彦

茨城県日立市大みか町五丁目2番1号 株式会社日立製作所大みか工場内

(72)発明者 濑古沢 照治

神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地 株式会社日立製作所システム開発研究所内

(72)発明者 白石 浩通

茨城県日立市大みか町五丁目2番1号 日立プロセスコンピュータエンジニアリング内

(72)発明者 吉川 伸也

茨城県日立市大みか町五丁目2番1号 日立プロセスコンピュータエンジニアリング内

(72)発明者 岡 光宣

東京都港区赤坂二丁目2番19号 株式会社
日本環境認証機構内

(72)発明者 柴宮 智信

東京都港区赤坂二丁目2番19号 株式会社
日本環境認証機構内